

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

**評価結果報告書****地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4690200102
法人名	NPO法人 こしき風林火山
事業所名	グループホーム多喜人
訪問調査日	平成20年11月8日
評価確定日	平成21年1月22日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4690200102		
法人名	NPO法人 こしき風林火山		
事業所名	グループホーム多喜人		
所在地	鹿児島県薩摩川内市里町里470 (電話) 09969-3-2127		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48-13		
訪問調査日	平成20年11月8日	評価確定日	平成21年1月22日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 11 月 1 日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	4人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.6

## (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺き造り		
	1階建ての	1階	～ 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17400円	その他の経費(月額)	8000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200円	昼食	250円
	夕食	300円	おやつ	100円
	または1日当たり 850円			

## (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	6名	男性2名	女性4名
要介護1	2名	要介護2	
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5		要支援2	
年齢	平均79.9歳	最低66歳	最高92歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	薩摩川内市里診療所(歯科も含む)
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

甌島唯一のグループホームとして開設されたこのホームは武家屋敷の風情が残る里の住宅街に和風の家屋が違和感なく佇んでいる。自然が豊富で、地域性もあり、隣近所とのつながりが非常に深く、職員も利用者もほとんどが顔なじみの関係で近隣の住人からの差し入れなども頻繁にある。運営者、管理者、職員は地域に支えられながら日々のケアに適進している。「職員が笑顔であれば利用者も笑顔に、また、利用者の笑顔を見れば職員も笑顔に」をモットーにし、開設2年目を迎えたこのホームは、自己研鑽意欲の高い職員にも恵まれ、更に充実したグループホーム運営が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価であるため前回の評価はなし。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解し、振り返りや気づきを日々のケアに取り入れてサービスの質の向上に活かされている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は参加者の日程の調整などで現在、3ヵ月に1回の実施が現状であるが、毎回必ず市町村担当者の参加もあり、自治会長、民生委員、消防分団長、家族代表などの参加を得ている。帰宅願望の強い利用者の見守りなどについて話し合いがなされるなど、ホーム運営の理解を深め協力関係を話し合っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の来訪時や請求書を持参した際に、要望を気軽に聞き出すように努めている。出された意見、要望については真摯に受け止め、話し合い対応できるように取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、町の行事などにも参加している。近隣の住民からの野菜、魚、果物などの差し入れも頻繁にあり、ホームでの夏祭りに地域の方々も遊びにくるなど交流は盛んにおこなわれている。今後は幼稚園児との交流も検討中である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に「風」「林」「火」「山」を理念にたとえて作り上げている。		地域とのつながりが深い特色を活かし、今一度職員全員で話し合い、地域密着型サービスの理念を作り上げることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議の際に常に話している。理念はホールと玄関に掲げてある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入しており、町の行事などへの参加もしている。近隣の住民からの差し入れも頻繁にあるなど、隣近所とのつきあいが非常に深い。また、ホームでの夏祭りにも地域の方々が遊びに来るなど交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価であったが、気づきや振り返りの機会として、非常に意義を見い出している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在3ヵ月に1回の実施であるが、毎回市町村担当者の出席があり、自治会長、民生委員、消防分団、家族代表などの参加を得ている。帰宅願望の強い利用者の見守りなど、ホーム運営の理解を深め協力関係が話し合われるなどしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の利用、介護保険更新の際に市町村担当者と報告、相談をしながら協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時や請求書と一緒に個人のホームでの日々の暮らしぶりや身体状況など報告している。金銭管理は出納帳でおこなわれている。 職員異動の際は新任は挨拶回りもしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月請求書持参の際に要望を気軽に引き出すように努めている。出された要望は職員で話し合い、運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初は離職者があったが、現在は職員も定着し、利用者とのなじみの関係ができつつある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地元開催の外部研修は職員が参加しやすい時間帯に設定してあるので、できるだけ参加している。職員会議の際に内部研修もおこなっている。 資格取得の自己研鑽意欲のある職員には支援していく体制である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	甑島内主催の医療連絡協議会、医療福祉連絡協議会に参加している。 甑島にグループホームは1軒のため、本土のグループホームに見学に行くなど交流と情報交換に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からの利用者がほとんどのため、必ず自宅訪問し、本人、家族の意向、希望などを聴取している。居室が空いている場合の体験入所も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に家族として寄り添い、ふれあうことを大切にしている。利用者からねぎらいのことばをもらったり、励まされたり、ことわざや家事を教わったりするなど、学び、支え合う関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での言動、表情、行動などから一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の離職などで、介護計画作成はこれまでは関係者との話し合いが充分ではなかった。		計画作成担当者も定着し、今後は本人、家族、必要な関係者と十分な話し合いのもと、一人ひとりのその時点にそった個別具体的な介護計画を作成されることが望まれる。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(6ヵ月)な見直しと状態の変化の際にはその都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との話し合いで本土への病院受診、外泊支援、自宅訪問の送迎、墓参りなど、柔軟な支援をおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する医療機関と連携をとっている。 本人、家族の希望により、本土の医療機関受診も支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	全職員との話し合いで指針を定めていくように検討中である。		重度化や終末期に対する対応指針を定めて全職員は重度化や終末期に対する方針の共有が求められる。 グループホームができる最大限の支援を家族にも説明し、同意書を作成することが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の関わりの中で、職員は傾聴に心がけ、利用者の尊厳を大切に、穏やかな声かけと態度で対応している。 職員採用時の誓約書も取っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、睡眠、入浴など一人ひとりの体調や思いに配慮しながら利用者のペースで生活できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は下膳、配膳、下ごしらえなどできる方と一緒にいき、同じテーブルでサポートしながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日が決められてはいるが、本人の希望する入浴の支援に努めている。 ときには、近所の温泉を楽しむこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌に合わせての体操や塗り絵、貼り絵、ペーパークラフト、ハモニカなど利用者の趣味や特技を発揮できるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩、買い物、自宅訪問、近くの墓参り、菜園いじりなどホームに閉じこもらないよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけないケアを心がけており、帰宅願望の強い利用者もいるが、行動を察知して、見守るなどの配慮で、できるだけ自由な暮らしができるように努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防団の協力で、昼想定避難訓練を年に2回実施している。救命救急の講習会にも参加している。 離島なので台風には備えての備蓄は怠らない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況に応じてとろみ食、おかゆを提供している。水分も1日の目安を決めて摂取している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく広く、たたみのスペースもある。エレクトーンなどの楽器もあり、大きな水槽も置かれ利用者が居心地よく過ごせるように配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、ラジオ、一面鏡、写真とお供えなどなじみの物が持ち込まれている。利用者の希望により、たたみ敷きにするなど配慮されている。		